

京都府損保特殊暴力対策協議会総会を開催

～京都府警察等関係団体と不正請求根絶に向けた連携を確認～

日本損害保険協会近畿支部委員会（委員長：岡田 英明・損害保険ジャパン株式会社 常務執行役員）では、7 月 27 日（月）に京都市内で第 48 回京都府損保特殊暴力対策協議会総会を開催し、来賓・顧問・会員など 36 名の出席がありました。

開会に際し、当協議会の 高橋 由和 会長（東京海上日動火災保険株式会社京滋損害サービス部長）から、関係各位の日頃の支援・協力への感謝の意を表するとともに、特に京都府警察に対しては「他の事件が多発している中、損害保険にかかわる犯罪の摘発に尽力いただき、保険犯罪に対する強い姿勢が保険金詐欺を企てようとする者に対して大きな抑止力となっていることに深く感謝申し上げる」旨の挨拶がありました。

次いで、当協議会顧問の京都府警察本部刑事部の 宮田 浩明 捜査第四課長からは、「暴力団構成数は減少傾向にあるが、トクリュウを配下にして特殊詐欺等を行っている。今後も、連携しながら、京都の安全安心の実現に向けて取締まりや諸対策を進めていく所存である」旨の挨拶がありました。

また、同じく顧問の同交通部の 藤田 栄治 交通捜査課長からは、「交通事故をめぐる保険金の詐欺事件の検挙件数と被害金額は前年対比で減少している。今後も緊密な連携と相互の情報交換により不正請求根絶に向け、より一層強い姿勢で臨む所存である」旨の挨拶がありました。

来賓の同刑事部 田村 博之 参事官からは、「暴力団構成員数は減少しているが、実態としては不透明化を図り組織を維持している。トクリュウ等に実質的な打撃を与え、暴力団等の壊滅に向け徹底した取締まりと排除活動を推進していく。これからも連携を図り、京都の安全安心の実現のために取り組んでいきたい」旨の挨拶がありました。

また、同じく来賓の京都弁護士会 民暴・非弁取締委員会の 赤尾 啓太 委員長からは、「昨今は不当要求をする人が一般の人にまで及んでいる。モラル事案も引き続き多い。企業に対してカスハラ対策が法令上求められる時代であり対策を強化している。今後とも暴排、非弁取締り活動に取り組んでいきたい」旨の挨拶がありました。

続いて、当協議会の 吉田 副代表幹事（あいおいニッセイ同和損保社）から、令和 7 年度の活動報告および令和 8 年度の活動計画の提案があり、満場一致で承認されました。

次いで、当協議会の 廣川 副代表幹事（東京海上日動社）から、決議文が読み上げられ、満場一致で採択し、その意思を確固たるものにしました。

最後に、当協議会の 大野 代表幹事（損保ジャパン社）から、閉会の挨拶があり、総会を終了しました。

総会終了後の研修会では、京都府警察本部刑事部捜査第四課の 本田 喜一郎 課長補佐から「暴力団等の情勢について」と題して、事例を交えた有益な講話がありました。

損害保険業界では、1979 年から民事介入暴力対策および不正請求対策として、警察・関係団体と連携を図り、健全な損害保険事業の運営を行うため、全国にこのような協議会を設けています。当協議会は 1979 年に全国に先立ち設置されています。



会場の様子



開会挨拶をする高橋会長
(東京海上日動社)



活動報告を行う吉田副代表幹事
(あいおいニッセイ同和損保社)



決議文を読み上げる廣川副代表幹事
(東京海上日動社)



閉会挨拶をする大野代表幹事
(損保ジャパン社)



司会を行う文字幹事
(A I G損保社)